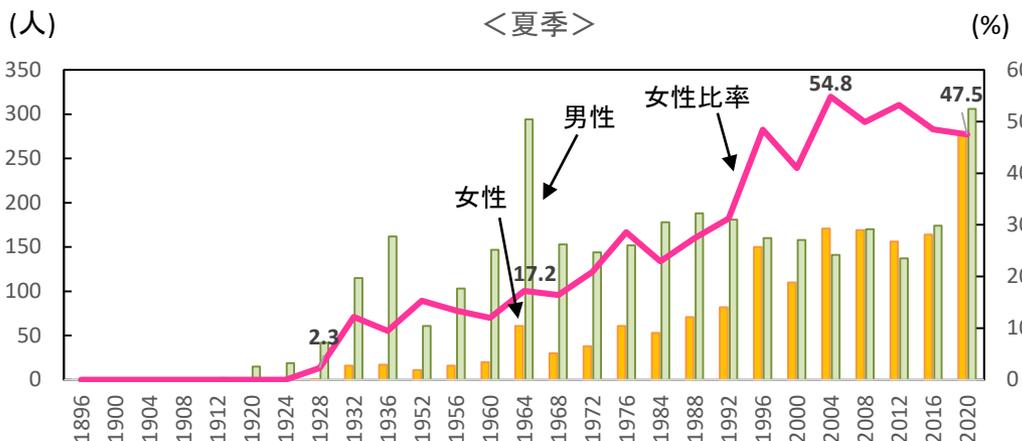


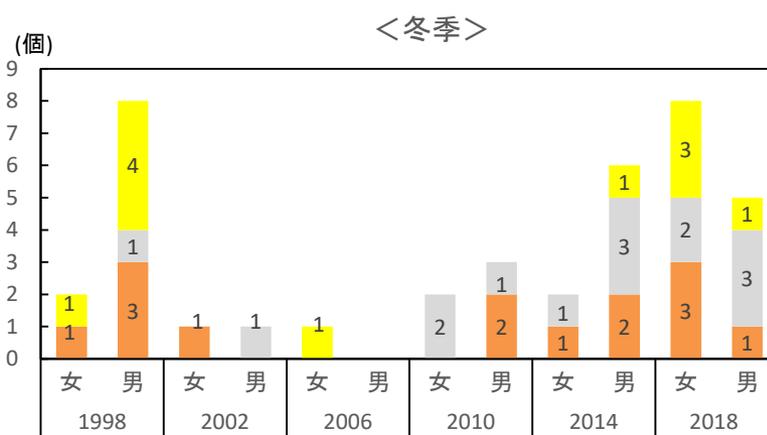
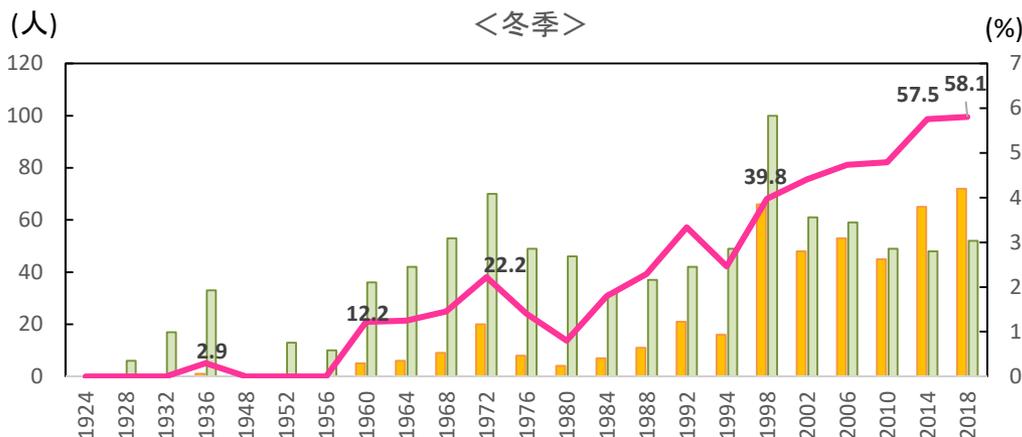
オリンピックにおける日本選手団の女性の活躍

- ・オリンピック日本選手団に占める女子選手の割合を見ると、夏季大会では、アムステルダム1928大会で初の女子選手が参加し、東京1964大会では17.2%になり、アテネ2004大会で54.8%と初めて5割を超えるなど、回を重ねるごとに着実に増加し、近年は、概ね半数で推移している(東京2020大会では47.5%)。冬季大会では、平昌2018大会で58.1%と過去最高となった。
- ・東京2020大会においては、日本は、計58種目(女子30・男子25・混合3)でメダルを獲得し、特に、女子種目のメダル総数30個は男子と比較しても史上最多であり、また夏季オリンピックで初めて女子種目のメダル総数・金メダル数の両方が男子種目を上回るなど、女性の活躍が際立つ結果となった。

図表1 オリンピック日本選手団に占める女子選手の割合



図表2 オリンピック日本選手団の男女別のメダル数



(備考) 1. IOCホームページ、JOCホームページ及びJSC提供データより作成。

2. 図表1について、夏季のグラフについては、ロンドン1948大会、モスクワ1980大会、冬季のグラフについては、サン・モリッツ1948大会は、日本不参加のため除く。

3. 図表2について、男女混合種目は除く。